

# 2017年3月期 第1四半期電話会議資料

(2871)

## 株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

財務IR部 IRグループ

TEL: 03-3248-2167

E-mail: [irinfo@nichirei.co.jp](mailto:irinfo@nichirei.co.jp)

URL : <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

# 加工食品がグループ全体の業績を大きく牽引

単位：億円

	第1四半期				通期				
	実績	前年同期間比		通期見込に 対する進捗率	見込	前年同期間比		前回見込比	
		増減	率			増減	率	前回見込	増減
加工食品	508	22	4%	25%	2,030	38	2%	2,030	0
水産	163	6	4%	23%	700	12	2%	700	0
畜産	217	-8	-4%	25%	860	-60	-7%	860	0
低温物流	460	14	3%	25%	1,870	21	1%	1,870	0
不動産	12	-0	-0%	26%	45	-1	-3%	45	0
その他	9	-2	-20%	18%	49	-3	-6%	49	0
調整額	-46	5	-	-	-197	-3	-	-197	0
<b>売上高合計</b>	<b>1,322</b>	<b>37</b>	<b>3%</b>	<b>25%</b>	<b>5,357</b>	<b>3</b>	<b>0%</b>	<b>5,357</b>	<b>0</b>
加工食品	44	28	181%	55%	80	0	1%	80	0
水産	3	3	-	50%	6	-1	-8%	6	0
畜産	1	0	8%	22%	6	2	57%	6	0
低温物流	23	-0	-2%	23%	103	3	4%	103	0
不動産	5	-0	-3%	27%	20	-2	-9%	20	0
その他	1	-1	-43%	12%	6	-3	-34%	6	0
調整額	-3	-0	-	-	-4	1	-	-4	0
<b>営業利益合計</b>	<b>74</b>	<b>30</b>	<b>67%</b>	<b>34%</b>	<b>217</b>	<b>1</b>	<b>1%</b>	<b>217</b>	<b>0</b>
<b>経常利益</b>	<b>76</b>	<b>30</b>	<b>66%</b>	<b>36%</b>	<b>212</b>	<b>-2</b>	<b>-1%</b>	<b>212</b>	<b>0</b>
<b>純利益</b>	<b>52</b>	<b>24</b>	<b>82%</b>	<b>41%</b>	<b>128</b>	<b>-7</b>	<b>-5%</b>	<b>128</b>	<b>0</b>

為替レート	2016年度 見込	2016年度 実績	2015年度 実績
	米ドル/円	118.00	115.45
ユーロ/円	130.00	127.18	134.18

注：①純利益は「親会社株主に帰属する純利益」を指しています。  
②為替レートの実績は1月～3月までの期中平均で算出しています。

- 1.売上高は主力の加工食品と低温物流が堅調に推移し増収。
- 2.営業利益は加工食品の数量増が貢献、水産も好調で増益に。
- 3.通期見込は5月10日に発表した数値から変更していない。

# 主力商品の販売が好調に推移、営業利益も計画を上回って進捗

単位：億円

		第1四半期				通期				
		実績	前年同期間比		通期見込に 対する進捗率	見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率			増減	率	前回見込	増減
加工食品	売上高 計	508	22	4%	25%	2,030	38	2%	2,030	0
	家庭用調理品	123	16	15%	26%	475	5	1%	475	0
	業務用調理品	217	9	4%	24%	902	40	5%	902	0
	農産加工品	49	0	1%	28%	175	-10	-5%	175	0
	海外	77	3	4%	25%	304	0	0%	304	0
	その他	42	-7	-14%	24%	174	3	2%	174	0
	営業利益	44	28	181%	55%	80	0	1%	80	0

- 1.家庭用調理品は今年3月に放映したテレビCMの効果などで米飯類の販売が大きく伸長。  
業務用調理品は中食ルート向けを中心に主力のチキン加工品の拡販が進む。  
海外は米国のイノバジアン・クイジーンによるアジアンフーズの販売が引き続き好調に推移。
- 2.営業利益は調理冷凍食品の増収効果や生産効率の向上に加え、海外関係会社の業績が好調に推移したことにより増益。原材料・仕入コストの低減もプラス影響。

# 水産はエビ加工品の採算が改善

単位：億円

		第1四半期				通期				
		実績	前年同期間比		通期見込に対する進捗率	見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率			増減	率	前回見込	増減
水産	売上高	163	6	4%	23%	700	12	2%	700	0
	営業利益	3	3	-	50%	6	-1	-8%	6	0
畜産	売上高	217	-8	-4%	25%	860	-60	-7%	860	0
	営業利益	1	0	8%	22%	6	2	57%	6	0

- 1.水産は貝類の外食向けの販売が伸長したことなどで増収。利益面では前期に実施したエビ加工品の調達拠点の多様化が寄与。
- 2.畜産は中食ルート向けの加工品の販売が引き続き好調に推移したが、輸入チキンを中心に採算を重視した販売を徹底したことで減収。営業利益は前期並みを確保。

# セグメント毎に進捗の違いはあるが、全体では計画通りに推移

単位：億円

		第1四半期				通期				
		実績	前年同期間比		通期見込に対する進捗率	見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率			増減	率	前回見込	増減
低温物流	売上高計	460	14	3%	25%	1,870	21	1%	1,870	0
	国内小計	372	6	2%	25%	1,508	26	2%	1,508	0
	物流ネットワーク	218	-5	-2%	25%	879	-29	-3%	879	0
	地域保管	153	12	8%	24%	629	55	10%	629	0
	海外	79	2	2%	24%	326	-13	-4%	326	0
	その他・共通	9	6	144%	26%	36	9	31%	36	0
	営業利益計	23	-0	-2%	23%	103	3	4%	103	0
	国内小計	23	-1	-4%	24%	94	6	6%	94	0
	物流ネットワーク	6	-3	-32%	18%	35	1	3%	35	0
	地域保管	16	2	15%	28%	59	5	8%	59	0
海外	2	-0	-11%	18%	10	-4	-27%	10	0	
その他・共通	-1	1	-	-	-1	2	-	-1	0	

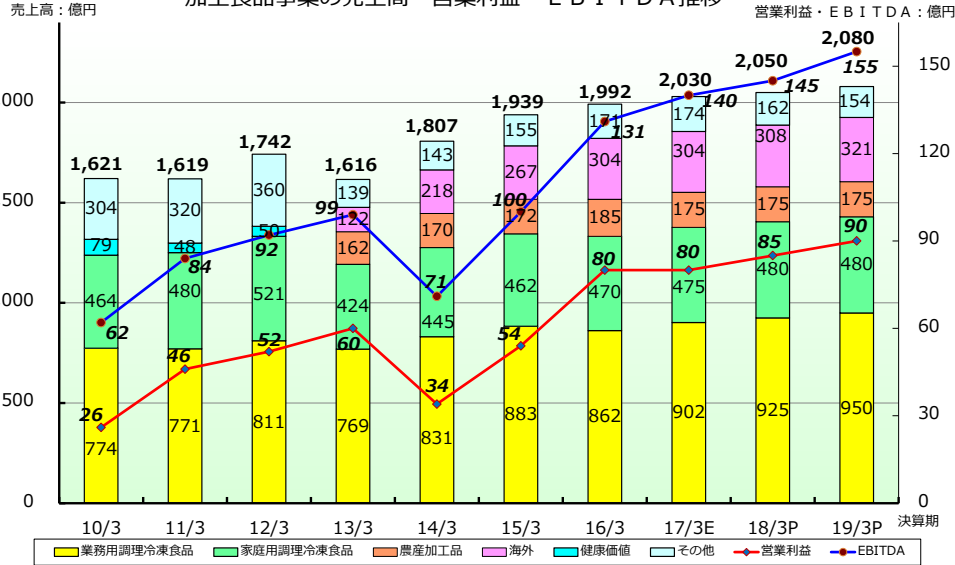
注：17/3も地域保管事業へ物流ネットワーク事業の業務の一部を移管。

- 1.国内は今年4月に稼動したT Cの新設効果などにより増収。営業利益は新規T Cの一時的な立ち上げコスト増などが響き減益。
- 2.海外はポーランドでの主要顧客の見直しによるマイナス影響があったが、オランダの冷蔵倉庫が新規貨物の獲得で高い在庫水準を保ち、全体では前期並みの利益を維持。

# 參考資料

---

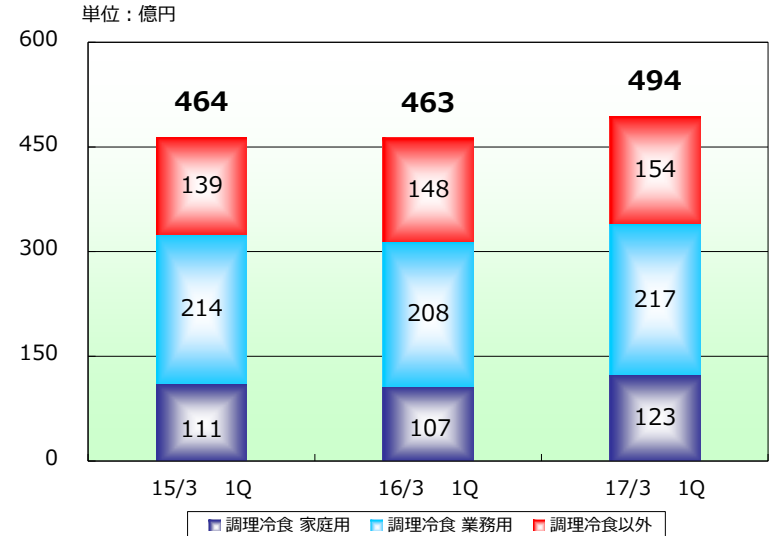
加工食品事業の売上高・営業利益・EBITDA推移



注：13/3より、売上計上基準の変更（従来、販売費で計上していたものの一部を売上高から控除）による影響を反映

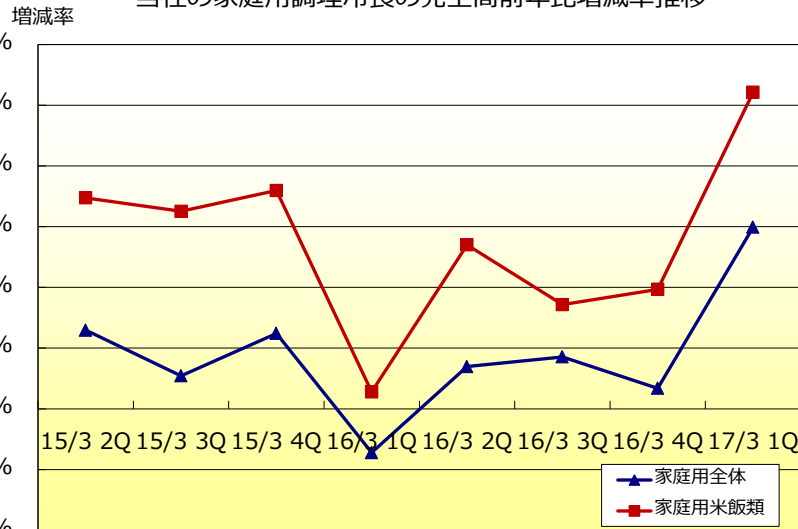
当社の国内冷凍食品売上高の推移

（日本冷凍食品協会定義にもとづき、加工食品のほか水産畜産の売上も含む）

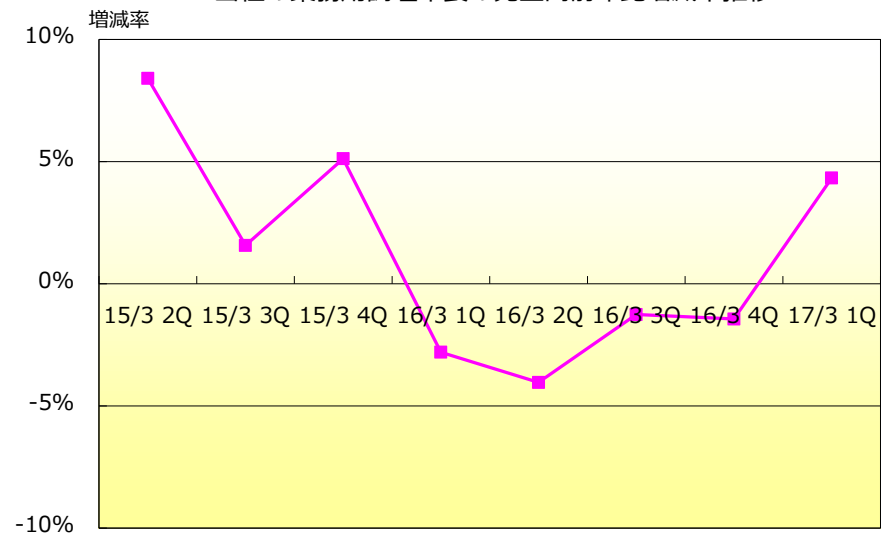


注：売上計上基準の変更（従来、販売費で計上していたものの一部を売上高から控除）による影響を反映

当社の家庭用調理冷食の売上高前年比増減率推移

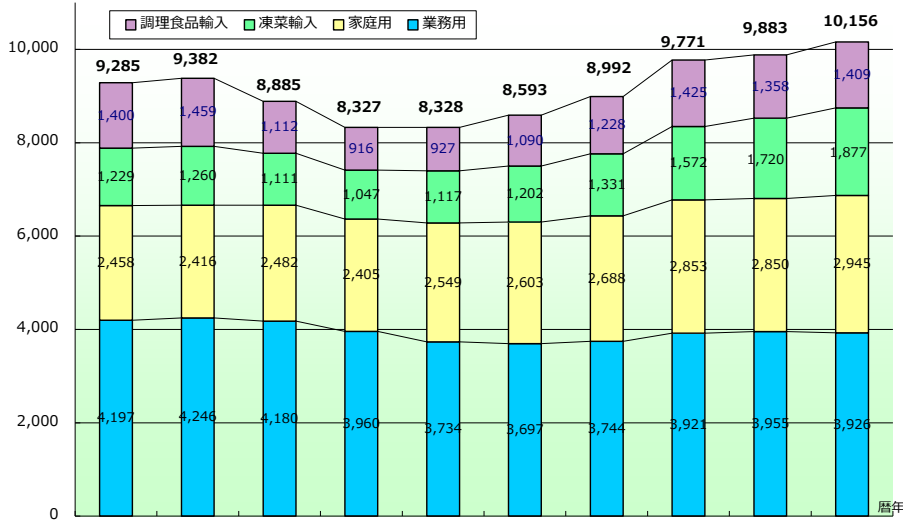


当社の業務用調理冷食の売上高前年比増減率推移



### 冷凍食品の市場動向

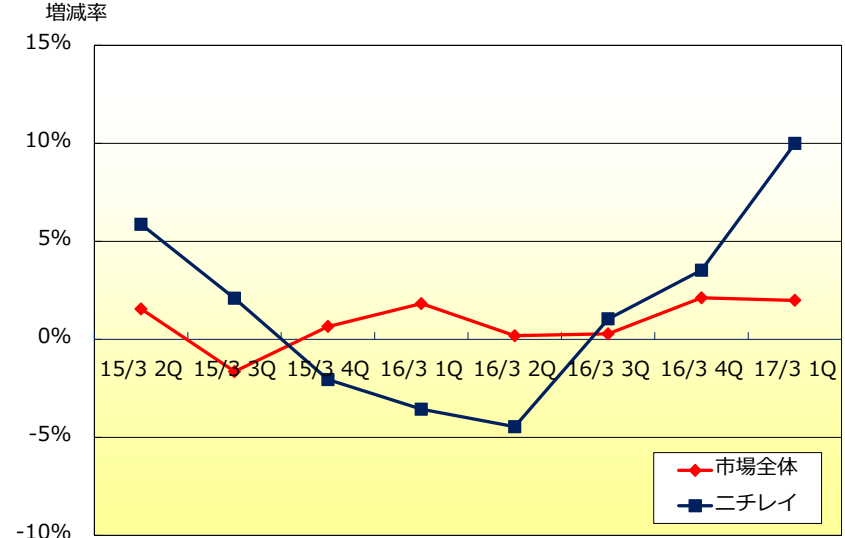
消費金額：億円



注：調理食品輸入金額は協会会員のうち25社（15年調査対象企業）の抽出調査のため100%網羅しているものではない。従って、会員以外の  
 商社、流通業者等が輸入しているものを考慮すると実際の輸入金額は更に上回るものと想定される。

出典：日本冷凍食品協会のデータを当社が加工

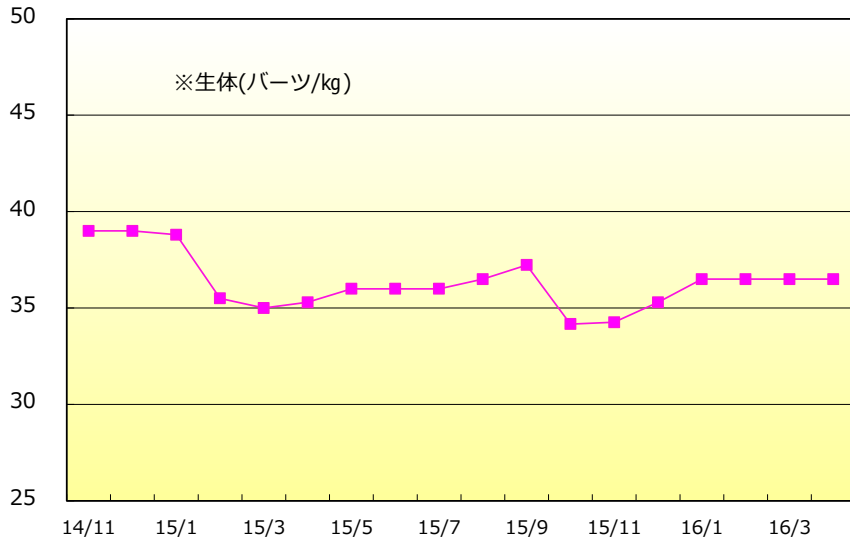
### SCI 家庭用調理冷凍食品 100人当たり購入金額の前年比推移



出典：インターージSCI（冷凍調理 100人当たり購入金額の前年同期比。購入ルート=生協店舗を含む）

### タイ国内鶏肉卸売価格の推移

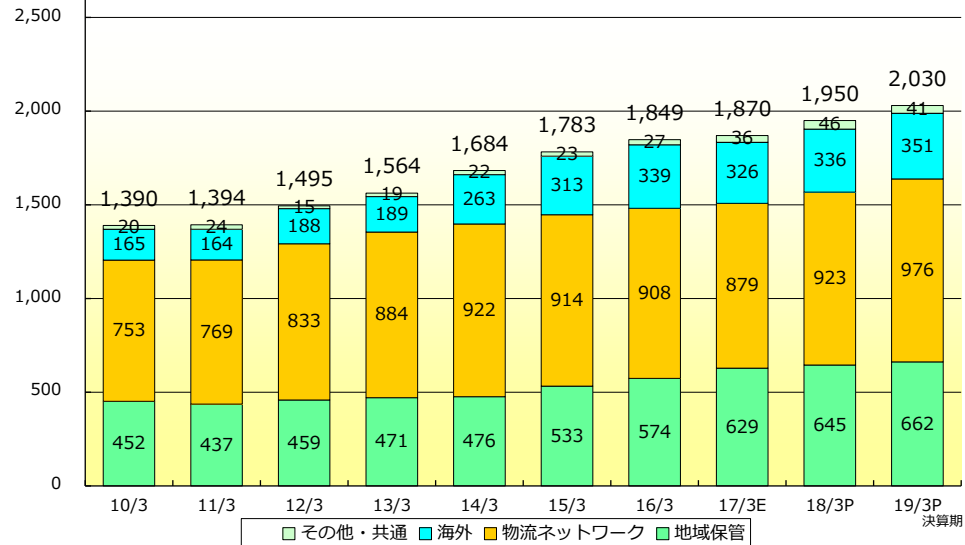
単位：パーツ



出典：(独)農畜産業振興機構 (alic) 発表のデータを当社が加工

### 低温物流事業の売上高推移

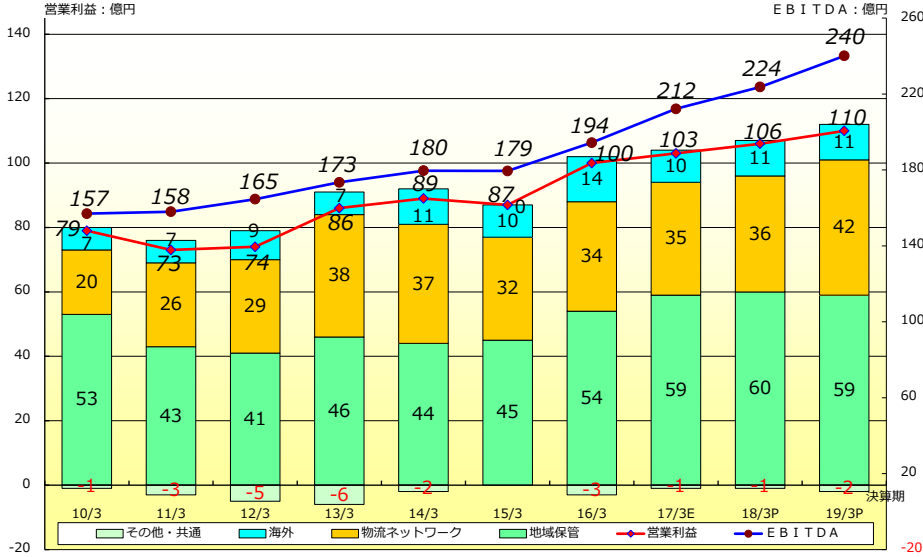
単位：億円



注：14/3から17/3Eの各年度に地域保管事業へ物流ネットワーク事業の業務の一部を移管

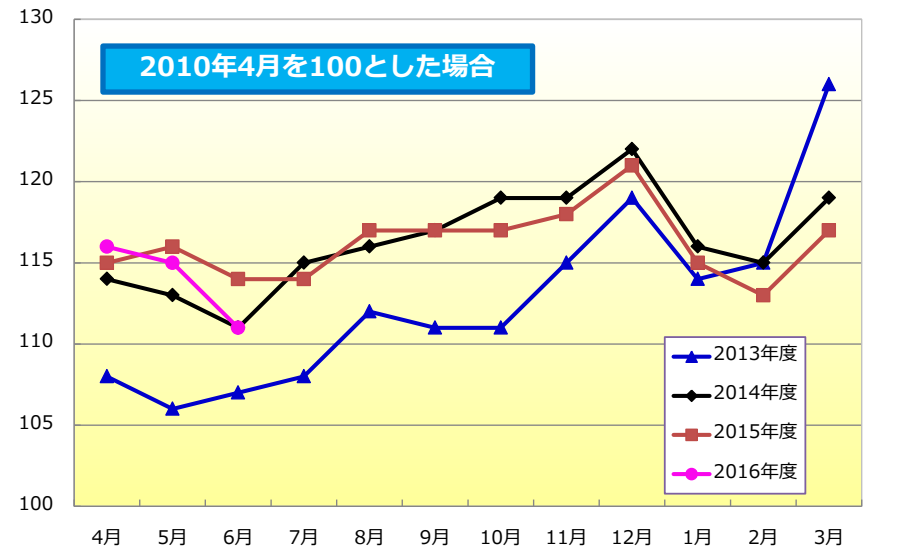


### 低温物流事業の営業利益・EBITDA推移



注：14/3から17/3Eの各年度に地域保管事業へ物流ネットワーク事業の業務の一部を移管

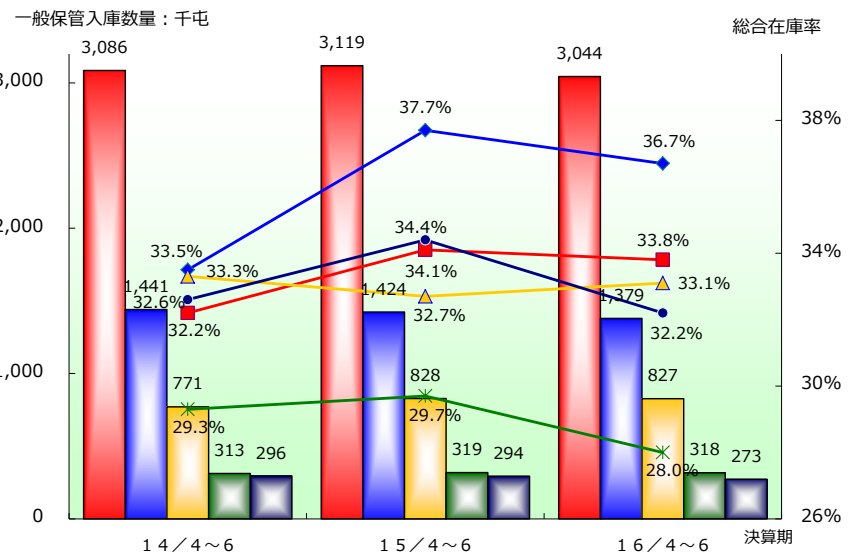
### 成約運賃指数（月別）の推移



出典：(社)全日本トラック協会発表のデータを当社が加工。常温を含む全温度帯が対象

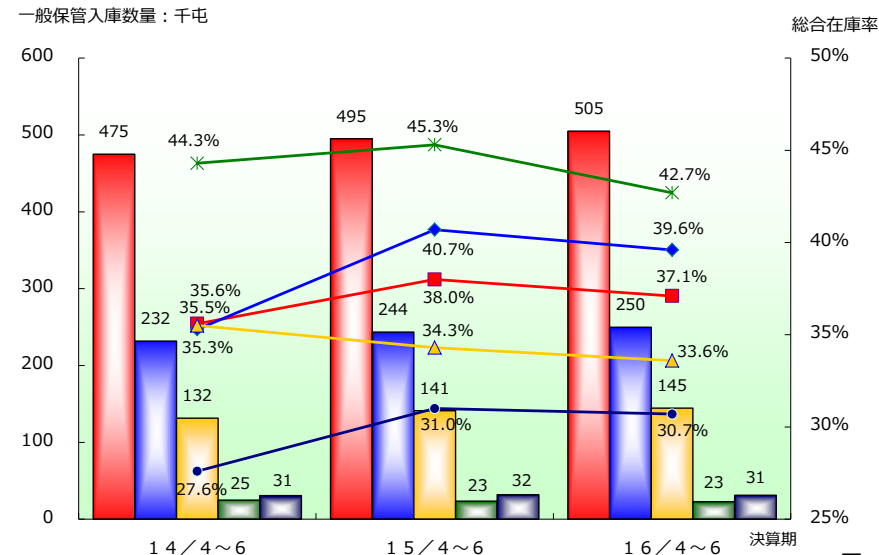
### 冷蔵倉庫の稼働状況（業界は日本冷蔵倉庫協会資料を当社で加工）

#### 業界の冷蔵倉庫稼働状況



注：在庫率とは冷蔵庫内の全スペースにおいて貨物が占める割合を指す。スペースには通路や作業空間などの荷物が置けない空間が通常半分程度含まれる

#### ニチレイグループの冷蔵倉庫稼働状況



## 冷蔵倉庫業界設備能力世界シェア上位10社

(世界冷蔵倉庫協会資料を当社で加工)

(2016年6月28日 現在)

順位	社名・グループ名	能力 万ト	主たる事業展開国
1	Americold Logistics	1,124	米国など
2	Lineage Logistics	690	米国
3	Swire Group	464	米国など
4	Preferred Freezer Services	369	米国など
5	AGRO Merchants Group, LLC	248	米国など
6	Nichirei Logistics Group, Inc.	178	日本など
7	Kloosterboer	171	オランダなど
8	VersaCold Logistics Services	130	カナダ
9	Partner Logistics (ICSH B.V.)	114	オランダなど
10	Interstate Warehousing, Inc.	114	米国

出典：I A R W (世界冷蔵倉庫協会) “Global Top 25 List”

## 冷蔵倉庫業界設備能力欧州シェア上位10社

(世界冷蔵倉庫協会資料を当社で加工)

(2016年6月28日 現在)

順位	社名・グループ名	能力 万ト	主たる事業展開国
1	Kloosterboer	171	オランダなど
2	Partner Logistics	114	オランダなど
3	AGRO Merchants Group, LLC	75	オランダなど
4	NewCold Cooperatief U.A.	63	ドイツなど
5	Gruppo Marconi Logistica Integrata	62	イタリア
6	Nichirei Logistics Group, Inc.	44	オランダなど
7	Bring Frigo	38	スウェーデンなど
8	Claus Sørensen A/S	29	デンマーク
9	Agri-Norcold A/S	27	デンマーク
10	Frigolanda Cold Logistics	21	ドイツなど

出典：I A R W (世界冷蔵倉庫協会) “European Top 10 List”

## 当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果

など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。